栃木県中学校体育連盟沿革

昭　和

２１年　９月　軍事主義的・国家主義的色彩から国民的・平和的教育への転換により、大日本学徒体育振興会栃木支部を、「栃木県学校体育連盟」と改称し再組織、再発足。事務所は、栃木県庁学務課分室に置く。１２専門部にて発足する。
学体連初代会長　山本作郎氏就任

２２年　４月　第１次米国教育使節団の勧告により「学校教育法」が制定され、新制中学校が発足する。

２３年　４月　１５専門部となり、学校体育連盟主催による第１回の県下大会を開催する。
賞状、バッジ、優勝旗を作成し授与する。
分担金として、中学校教職員・生徒１人につき年額５円の新設を行う。

２４年　４月　１７専門部となる。分担金として、中学校教職員・生徒１人につき年額１５円に改定する。

２９年　４月　学体連第２代会長　篠崎　耕太郎氏就任

３０年　４月　規約改正、高等学校部・中学校部・小学校部の各部会を設ける。中学校部会長に黒田邦博氏
事務所を県教育委員会健康教育課より栃木県教育会館（県庁前）に移転する。

３２年　４月　学体連第３代会長　黒田　邦博氏就任

３４年　４月　高校部会は「栃木県高等学校体育連盟」となり、中学校と小学校の両部会は、「栃木県学校体育連盟」となる。

３７年　４月　「栃木県学校体育連盟」は、３年間にわたり中学校と小学校が一体となり活動・運営してきたが、大規模になり複雑化してきたので、中学校部会を発展的に解消し、新たに「栃木県中学校体育連盟」１９専門部で発足する。
初代会長　黒田　邦博氏就任

３８年　９月　第８回関東中学校保健体育研究協議会栃木大会を今市市で開催する。

３９年　４月　第２代会長　小野寺　三五七氏就任

４１年　５月　第３代会長　塚田　武男氏就任
規約改正により、理事長制を設ける。

４４年　７月　栃木県中学校総合体育大会の充実。全競技種目選手役員約６０００余名が、県営陸上競技場において、各地区選手団別に入場行進をし、開会式を挙行する。

４６年　４月　第４代会長　五月女　兵吾氏就任

４７年　５月　栃木県中学校新人体育大会の充実を図り、１，２年生を対象とした秋期の新人大会を学校教育活動内の活動と位置付け、本連盟が主催する。新人体育大会の県費補助金３０万円の初交付を受ける。

４８年　４月　第５代会長　草島　尚介氏就任
８月　第３回全国中学生バドミントン大会を宇都宮市で開催する。
１１月　第１８回関東中学校保健体育研究協議会栃木大会を宇都宮市で開催する。（宮の原中学校）
関東中学校体育連盟２０周年

５０年　５月　第６代会長　鈴木　信氏就任
専門部に研修部を設置する。（運営資料の整理調整・教科研修の強化）
国費補助金（全国・関東体育大会の選手派遣費）９８万円及び（総合体育大会開催費）５０万円の交付を受ける。

５１年　４月　第７代会長　伊藤　守氏就任

５２年　４月　第８代会長　植竹　幸重氏就任
８月　第７回全国中学校バスケットボール大会を宇都宮市で開催する。
１２月　栃木県中学校体育連盟発足３０周年記念事業を実施する。
ア　優勝旗（３５）中体連旗（５）の更新　　昭和５２年　８月２日
イ　記念誌の発行　　昭和５２年１１月
ウ　記念大会の開催　　昭和５２年　８月２日　開会

エ　記念式典並びに表彰・記念講演　　昭和５２年１２月３日
記念事業の財源として、特別賛助会員の篤志寄付金と教職員（校長 1000 円、教頭 500 円、教職員 200 円）生徒 10 円の拠出を依頼する。
５４年　４月　第９代会長　沼尾　省治氏就任
栃木県中学校体育連盟事務局をスポーツ会館内に設置する。
６月　専門部ごとに以前から行われていた、スポーツ少年団大会を栃木県中学校関東大会県予選会（現・春季体育大会）とし、本連盟主催大会として実施する。
５５年　第３５回栃の葉国体の開催「のびる力・むすぶ心・ひらくあした」のテーマ
４月　専門部にホッケー部を設置する。
８月　第７回全国中学校陸上競技選手権大会を宇都宮市で開催する。
５６年　４月　第１０代会長　増渕　重雄氏就任
５８年　４月　第１１代会長　増渕　増雄氏就任
１０月　第２８回関東中学校保健体育研究協議会栃木大会を藤原町で開催する。（藤原中学校）
５９年　全国中学校選抜大会が、ブロック開催制となる。
６１年　５月　栃木県中学校運動部活動普及強化委員会が発足し、これまで体協が窓口であった強化奨励事業が中体連に移る。
６１年　４月　第１２代会長　大房　信一氏就任
８月　第１６回全国中学校バスケットボール大会を宇都宮市で開催する。
第１６回全国中学校バドミントン大会を真岡市で開催する。
６２年１１月　栃木県中学校体育連盟発足４０周年記念事業を実施する。
ア　記念大会の開催　　昭和６２年　７月２９日　開会
イ　優勝旗（新人体育大会）の樹立　　昭和６２年１０月１６日
ウ　記念誌の発行　　昭和６２年１１月２８日
エ　記念式典並びに表彰　　昭和６２年１１月２８日
記念事業の財源として、特別賛助会員の篤志寄付金と教職員（校長 1500 円以上、教頭 1000 円以上、教職員 500 円以上）の拠出を依頼する。
６３年　２月　全国中学校スケート大会を日光市で開催する。
国民体育大会への中学生の参加（水泳・陸上競技・体操・フィギュアスケート）が認められる。
６３年　４月　第１３代会長　渡辺　榮一氏就任

平　成
２年　４月　第１４代会長　武井　岩夫氏就任
３年　４月　第１５代会長　原　稔氏就任
１０月　第３６回関東中学校保健体育研究協議会栃木大会を塩原町で開催する。（塩原中学校）
４年　４月　第１６代会長　國井　克夫氏就任
１２月　栃木県中学校体育連盟顕彰規程を設ける。
７年　４月　第１７代会長　手塚　操氏就任
８月　第２６回全国中学校卓球大会を宇都宮市で開催する。
第１７回全国中学校軟式野球大会を宇都宮市で開催する。
９年１２月　第１７回全国中学校スケート・アイスホッケー大会を日光市で開催する。
栃木県中学校体育連盟発足５０周年記念事業を実施する。
ア　記念大会の開催（雨天のため開会式中止）　　平成　９年　７月２９日　開会
イ　記念式典並びに表彰　　平成　９年１２月　８日
ウ　記念誌の発行　　平成１０年　２月１２日
記念事業の財源として、中体連予算４０万円、分担金（地区中体連５万円×１０地区、専門部５万円×２０専門部）特別賛助会員の篤志寄付金の拠出を依頼する。
１０年　４月　第１８代会長　髙橋　雅義氏就任

１１年　４月　第１９代会長　濵田　友之氏就任
　　１０月　第４４回関東中学校保健体育研究協議会栃木大会を宇都宮市で開催する。（陽北中学校）
　　特別講演　講師　西　順一氏（宇都宮大学教育学部教授）
　　演題　「これからの部活動の在り方」
１３年　４月　第２０代会長　中山　正孝氏就任
１４年　２月　栃木県中学校体育連盟顕彰規程を一部改正する。
１５年　５月　規約一部改正により、教員分担金を２００円にする。
　　栃木県中学校体育連盟弔慰規程及び合同チーム編成規程を設ける。
　　栃木県中学校総合体育大会総合開会式の廃止を委員会で決定する。
　　栃木県中学校体育連盟要覧を創刊する。
１６年　４月　第２１代会長　森山　佳勇氏就任　栃木県中学校体育連盟ホームページを開設する。
　　８月　第３５回全国中学校ソフトテニス大会を黒磯市で開催する。
　　第３４回全国中学校剣道大会を小山市で開催する。
１７年　４月　第２２代会長　赤城　秀明氏就任
　　５月　市町村合併により、地区名を安佐地区から佐野地区に変更する。
　　規約一部改正により、学校分担金（学級数×１２００円）制度を設ける。
　　県中体連主催大会名を春季体育大会・総合体育大会・新人体育大会とする。
　　顕彰規程一部改正により、優秀地区賞を廃止し、優秀学校賞に春季体育大会を加える。
１８年　４月　生徒・引率者派遣費が、関東大会は生徒が実費、引率者は実費の三分の二となる。
　　また、全国大会は生徒・引率者ともに実費の三分の二となる。
　　５月　市町村合併により、地区名を上都賀北部地区から日光地区に変更する。
１９年　４月　第２３代会長　竹井　誠氏就任
　　全国・関東大会の選手・引率者派遣費が、実費の三分の二となる。
　　１０月　第５２回関東中学校保健体育研究協議会栃木大会を日光市で開催する。（ホテルニュー岡部）
　　特別講演　講師　三屋　裕子氏（女子バレーボール元日本代表）
　　演題　「バレーボールと私～いつも燃えていたい～」
　　１２月　栃木県中学校体育連盟発足６０周年記念事業を実施する。
　　ア　記念祝賀会（ホテルニューイタヤ）　平成１９年１２月　７日
　　イ　記念品作成（ネクタイ）　平成１９年１２月　７日
　　ウ　記念誌の発行　平成２０年　３月３１日
　　記念事業の財源として、特別賛助会員の篤志寄付金の拠出を依頼する。
２０年　５月　栃木県中学校体育連盟専門部規約を一部改正し、研修部の県中教研保健体育部会との関わりを強めると共に、新たに専門部設置規程を設ける。
　　平成１７年度より春季体育大会開催に伴い、各競技の優勝旗を計画的に（年４本）作成することとなる。
２１年　４月　第２４代会長　岩﨑　研一氏就任
　　全国・関東大会の選手・引率者派遣費が、実費の６０％となる。
　　５月　新型インフルエンザの猛威により、栃木県中学校体育連盟緊急連絡網を作成した。
２２年　４月　第２５代会長　坂本　俊二氏就任
　　全国・関東大会の選手・引率者派遣費が、選手のみとなり、実費の６０％となる。
　　２月　有望選手に対して、「 奨励賞 」を与える。
２３年　４月　第２６代会長　市村　勝義氏就任
　　５月　東日本大震災を機に、栃木県中学校体育連盟緊急連絡網に携帯メールを加える。
２４年　２月　第３２回全国中学校アイスホッケー大会を日光市で開催する。
　　４月　市町村合併により、地区名を上都賀南部地区から鹿沼地区に変更する。
　　合同チーム編成規程を見直し、新たに栃木県中学校体育大会合同チーム参加規程を設ける。
２４年　８月　第３４回全国中学校ソフトボール大会を那須塩原市で開催する。

第５２回全国中学校水泳競技大会を宇都宮市と小山市で開催する。
２５年　４月　第２７代会長　髙久　昌一氏就任
専門部設置規程を見直し、新たに新規加盟規程を設ける。
合同チーム参加規程を一部改訂する。
２７年　１月　第３５回全国中学校アイスホッケー大会を日光市で開催する。
２７年　４月　第２８代会長　小花　聡氏就任
２７年　５月　規約一部改正により、教員分担金を２５０円とする。
県中体連主催大会において競技役員を行う教職員を対象として傷害保険に加入する。
顕彰規程を一部改正し、文言の修正並びに第５条を加筆する。
２７年　９月　役員ネクタイ作成
１０月　第６０回関東中学校保健体育研究協議会栃木大会を宇都宮市で開催する。
(教育会館・コンセーレ)
特別講演　講師　清原　伸彦氏（日本体育大学名誉教授・学校法人武相学園理事長）
演題　「集団行動を通し伝えたいこと」
２８年　５月　合同チーム参加規程を一部改訂する。(アイスホッケー競技)
６月　栃木県中学校体育連盟発足７０周年記念事業実行委員会を発足する。
７月　危機管理に関する文書の発送
９月　県新人大会より大会開催費を口座振り込みとする。
１１月　県大会優勝旗状況調査を行う。
２９年　４月　第２９代会長　塩田　雅明氏就任
５月　合同チーム参加規程を一部改訂する。(ホッケー競技)
危機管理マニュアルの再検討を行い、各専門部で作成する。
１２月　栃木県中学校体育連盟発足７０周年記念事業を実施する。
ア　記念祝賀会（ホテルニューイタヤ）　平成２９年１２月　１日
イ　記念品作成（タオル）　平成２９年１２月　１日
ウ　記念誌の発行　平成２９年１２月　１日
記念事業の財源として、特別賛助会員の篤志寄付金の拠出を依頼する。
３０年　４月　第３０代会長　中山　俊美氏就任
５月　栃木県中学校体育連盟運動部活動普及強化委員会規程を一部改訂する。(代表委員削除)
合同チーム参加規程を一部改訂する。(監督・引率に部活動指導員を追加)
栃木県中学校体育連盟主催大会実施要項見直しを行う。(部活動指導員について)
硬式テニスを準加盟専門部として認める。研修部から研修・安全部へ改編する。
９月　「運動部活動顧問等の部活動指導中における暴力・体罰・セクハラ等に対する栃木県中学校体育連盟の対応」を作成する。
１１月　「栃木県中学校体育連盟申し合わせ事項（栃木県中学校体育連盟・栃木県中学校長会）を作成する。

２０１９年（平成３１年・令和元年）
４月　第３１代会長　星　和人氏就任
５月　合同チーム参加規程を改訂する。
令和２年１月　熱中症等への対応として、法令外負担金の増額が認められる。
３月　新型コロナウイルス感染症が世界的に感染拡大する。東京オリンピック延期決定（2021へ）
４月　令和２年度栃木県中学校春季大会を中止する。
５月　全国中学校体育大会及び関東中学校体育大会中止決定
５月　栃木県中学校総合体育大会（夏季）を中止する。
７月　栃木県中学校新人体育大会を中止する。
９月　栃木県中学校体育連盟主催事業「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン Ver.1」作

成

１０月　全国中学校駅伝競走大会中止決定

１０月　栃木県総合体育大会アイスホッケー大会を実施する。

１１月　栃木県中学校駅伝競走大会を規模縮小し実施する。

栃木県中学校総合体育大会スケート大会（フィギュア）実施

栃木県中学校体育連盟主催事業「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン Ver.2」作成

１２月　栃木県中学校総合体育大会スケート大会（スピード）実施

１２月　関東中学校駅伝競走大会茨城大会が規模を縮小し開催される。

令和３年１月　栃木県中学校総合体育大会スキー大会中止決定

全国中学校体育大会冬季大会中止決定

３月　栃木県中学校体育連盟主催事業「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン Ver.3」作成

４月　第３２代会長　長谷川　智　氏就任

常任理事会の設置・顕彰規程（学校賞）一部廃止、優秀監督賞の新設・研修・安全部を研修部会と安全・危機管理部会へ改編する。

６月　栃木県中学校春季体育大会を規模縮小・感染対策し実施

７月　栃木県中学校総合体育大会を規模縮小・感染対策し実施

８月　第６５回全国中学校ソフトテニス大会を那須塩原市で開催する。

第６５回全国中学校卓球大会を宇都宮市で開催する。

１０月　栃木県中学校新人体育大会中止決定

１２月　栃木県中学校春季体育大会及び栃木県中学校総合体育大会を令和５年度より統合し、年間２大会の開催にすることを理事会決定する。

令和４年１月　栃木県中学校体育連盟主催事業「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン Ver.4」作成

４月　第３３代会長　髙橋　高　氏就任

６月　テニス（硬式）正式加盟の理事会決定をする。

９月　県総体（冬季）大会監督引率特例を決定する。大会参加規程について協議する。

１０月　関東中学校保健体育研究協議会千葉大会誌上発表

令和５年１月　第４３回全国中学校アイスホッケー大会を日光市で開催する。

２月　合同チーム参加規程一部改正

地域スポーツ団体（地域クラブ活動）等の大会参加特例の理事会決定（３月１０日公示）

監督・引率細則の理事会決定　栃木県中学校体育連盟規約一部改正

４月　第３４代会長　後藤　知行　氏就任

拠点校部活動参加規程の決定

栃木県中学校体育連盟主催事業「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン Ver.4」の撤廃決定